授業改善のためのアンケート調査結果
～農学部学生による授業評価～

新潟大学農学部教育検討委員会

Analytical Findings on Questionnairing (for students' evaluation of the lectures) for the Improvement of Lectures Standard

Committee for Improvement of Education, Faculty of Agriculture,
Niigata University

The Committee for Improvement of Education, to accumulate basic materials to improve the standard of the lectures, conducted a questionnaire on how the students in the Faculty of Agriculture evaluate the lectures they attend. The Committee prepared the plans and designs of the survey and used the questionnaire on September of 1996 among the students in the Faculty of Agriculture taking the 49 subjects and received responses from 1,801 students.

To have a general look on the findings, one would notice that though the students affirmatively showed a higher tendency to evaluate the lectures, they answered 'neither bad nor good' or 'bad' in response to the questions regarding the lecturers' method of delivering lectures and also gave the opinion that the improvement of lectures standard requires the lecturers' improved method of teaching. In addition, the survey reveals that though the percentage of the students' class attendance is high, their endeavor for the preparations and reviews of lessons is extremely unsatisfactory. The survey suggests the lecturers adopt active measures to improve the standard of their lectures.

Key words: Improvement of lectures standard, Questionnaire, Students' evaluation of the lectures, Efficient teaching methods required

はじめに

農学部教育検討委員会では、カリキュラム改善の一環として、学生を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を調査報告書にとりまとめ、公表してきた。昨年度の結果については、既に「カリキュラム改善のための農学部学生へのアンケート調査結果」としてとりまとめ、『大学教育研究年報』第2号に報告している。

本委員会では、これらの結果を農学部の教員に配布する一方、委員会としてもさらにカリキュラム改善の検討事項について議論を重ね、この度第2回目の学生アンケート調査を実施して、問題の所在を探ることとした。

この調査分析は、本委員会が平成8年9月に農学部学生を対象に行った授業評価に関するのアンケート調査の結果をとりまとめたものである。調査は、本委員会が作成した「授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）」（調査票は文末を参照）により、担当教員の協力を得て第1期の最終授業日を基準日に置いて、授業終了後、当該授業の聴講学生に調査票を配布し、回収を行ったものである。この度、委員会での分析結果がまとまったので、ここに公表し、広く関係者の参考に供する事とした。

アンケート調査の対象となった授業科目数は67科目であったが、このうち実施科目は49科目であった。また、回答学生数は対象学生数2,511名のうち1,801名で、回答率は72%であった。

また、調査対象学生の属性は、農業生産科学科が649名（36%）、応用生物化学科544名（30%）、生産環境

科学科593名（33％）で、その他16名が他学部等の学生であった。学年では、１年生が231名で13％、２年生が708名で39％、３年生が最も多く784名で44％、そして４年生は73名で４％であった。

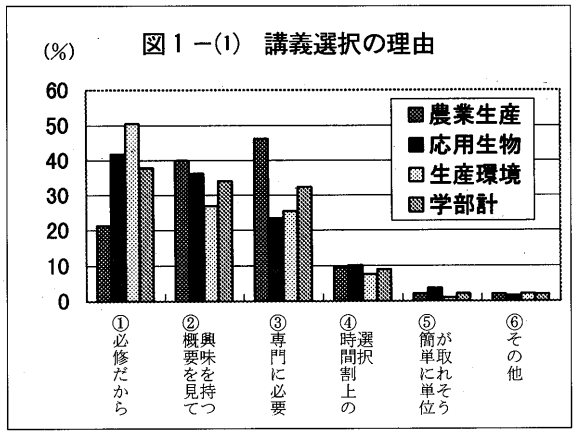
１．一般的な質問について

(1)　「講義選択の理由」（複数回答）について

選択肢６項目に対する学生の回答結果は、やや学科によって異なっている。農業生産科学科では、46％が「専門科目として必要だと思った」と最も多く回答され、次いで40％が「講義概要を見て内容に興味を持った」という回答であった。

これに対して、生産環境科学科では「必修だから」という理由が51％に達し、「内容に興味」「専門科目として必要」という回答は20％台にとどまった。また、応用生物化学科の結果はこの２学科の中間的なものとなった。一方、「簡単に単位が取れそうだった」という理由は全体で見ても２％程度にとどまったが、「時間割の関係で選択せざるを得なかった」という学生が約10％も見られた。

全体としては、「必修」「内容」「専門科目」という理由が30％台で並び、必修という制約の多少からこれらを一概に評価できないものの、現状からみればほぼ望ましい傾向にあるといえるのではあるまいか。



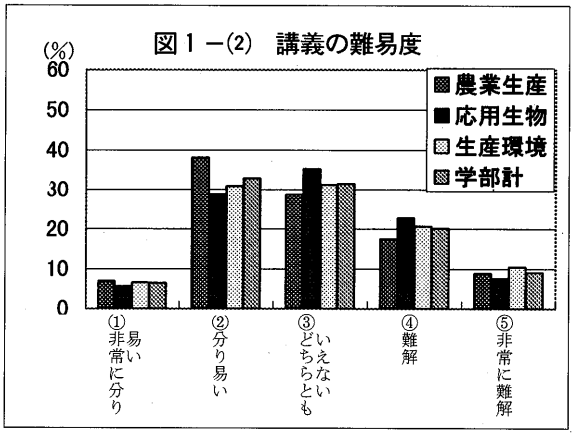
(2)　「講義の難易度」について

聴講した科目の難易度をめぐっては、やや厳しい授業評価となった。

すなわち、「非常にわかりやすかった」「わかりやすかった」回答率は全体で約40％弱、「わかりにくかった」「非常にわかりにくかった」計も約30％程度となった。また「どちらともいえない」回答率も32％みられた。このように、「わかりやすい」講義が回答の50％を割っていることを教員側は率直に受け止めなければならないであろう。

学科別の傾向としては、農業生産科学科で「わかりやすかった」回答率が45％であったものの、応用生物化学科ではこれが34％と最低であった。この学科では、「わかりにくかった」意見も30％を超え、学生の評価が大きく３分された形となっている。

いずれにしても、「どちらともいえない」の３割を超える結果を考慮すると、教員側の講義に対する一層の工夫が求められているといえよう。



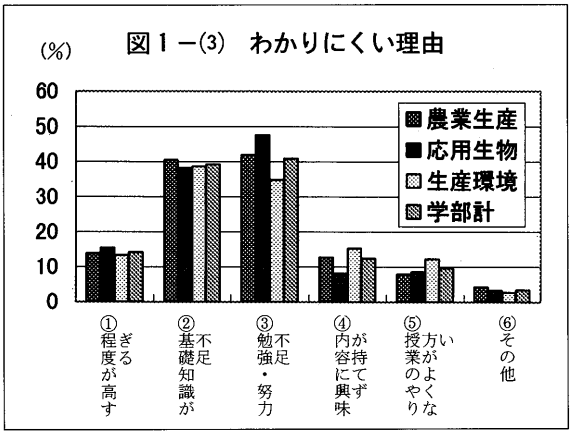
(3)　受講してわかりにくい点が出てきた理由について

受講してわかりにくい原因に関して、農業生産科学科では、「講義に要求される基礎知識が不足していた」（41％）、「自分の勉強、努力が足りなかった」（42％）が多く、応用生物化学科では、同様に「基礎知識の不足」（38％）、「勉強、努力が足りなかった」が（48％）であり、生産環境科学科でもこの２つの理由が各々39％と35％であった。

その他、「講義の程度が高すぎる」という意見が３学科平均で14％、「内容に興味がもてず勉強する気になれなかった」が12％、「授業のやり方が良くなかった」が10％みられた。

このように、受講した科目がわかりにくい主な原因

として、学生は自らの基礎知識の不足や努力の不足を認めていたが、併せて教員側の努力も必要といえよう。



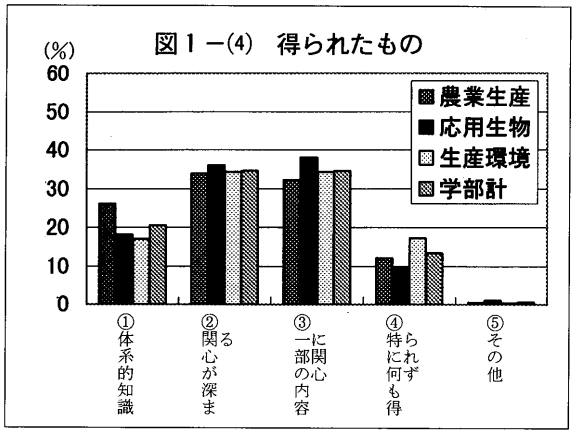
(4)　受講の結果得られたもの

農業生産科学科では、「この分野の学問に対し関心が深まった」(34%)、「一部の内容に関心を持った」(32%)、「体系的知識が身についた」(26%) という回答順で、合計すると92%にのぼった。特に、「体系的知識」の修得は３学科で最高値であった。

応用生物化学科では、「一部に関心」が38%、「この分野の学問に関心」が36%であった。

生産環境科学科では、上記応用生物化学科の２項目が共に34%であった。

以上より、受講の結果得られたものは、本アンケート項目のなかで、受講した学問分野に約70%の学生が関心が深まったとした一方、「特に何も得られなかった」学生も13%存在している。今後、こうした関心を持てななかった層の学生に対して、どのような授業が必要であるのか、その教育目標も定めて行かなければならないことを示唆した。

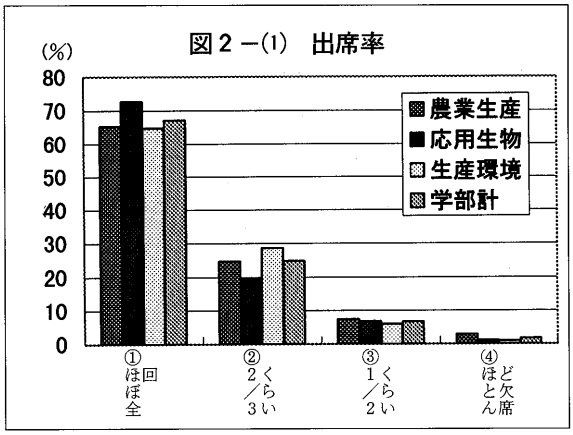


２．学生自身の受講の様子について

(1)　講義への出席状況について

学生自身の受講状況のうち、講義の出席状況をたずねると、「ほぼ全回出席」と「2/3出席」を合わせると３学科とも90%以上となり、出席状況に関してまずは一安心と言える結果となった。

しかし、試験を受けるための資格を放棄している学生が７～10%もおり、何らかの対策が必要と考えられる。



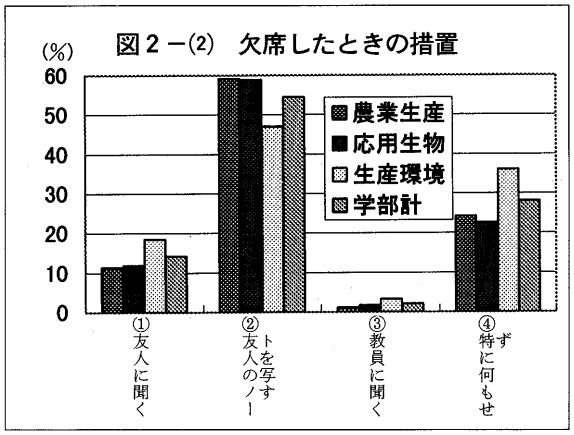
(2)　講義に欠席・遅刻したときの対応について（複数回答）

この点については、複数回答のためはっきりした数はわからないが、およそ60～70%の学生が遅刻あるいは欠席の事後処理において、何らかの対応策を取っている。

「ノートを友人に借りて写した」が最も高く、「担当教員に聞く」が１～３%しかいないことについて、我々教員側も反省すべき点があるのではないだろうか。「担当教員に聞く」「講義の内容を友人に聞く」の数値が生産環境科学科では他学科に比べ多少高く、対応に積極性が見られる。

その反面、何もしなかったと答えた学生も23～36%と多く、由々しき問題である。これは次の質問項目(3)、(4)とも関連しており、講義内容が理解出来たうえでの

選択とは考えにくい。このような状態が出席率低下の原因の一つになっているのではないだろうか。

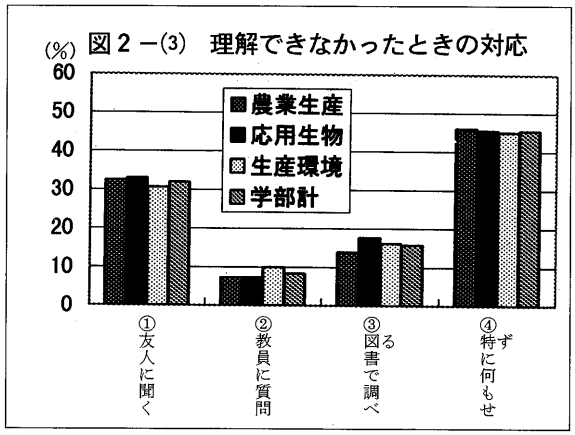


(3)　講義で理解できなった箇所が出たときの対応について（複数回答）

理解できない箇所が出たとき、「特に何もしなかった」と回答した学生は、45～46％とかなりの割合を占め、学科による違いはなかった。この結果から、理解できない時に何らかの努力をしている積極的な学生（55％）と、何もしない消極的な学生（45％）に二分していると考えられる。消極的な学生は、理解できない箇所をそのままにするため授業がますます分からなくなり、授業に対する興味を失うであろう。実際、試験やレポートを見てもしっかり勉強している学生と、単位を取ればよいという投げやりな学生に二分しているように感じられる。この結果、学年進行に伴い、意欲的学生と無気力学生への二分極が進むと考えられる。従来、消極的学生は授業に欠席しがちになったり、留年するものが多かったが、(1)に見られるように出席率は良いことから、出席はしているがあまり真剣に勉強していない者が多いことが最近の学生の特徴である。このことが、「私語が多い、集中力がない」といわれる理由かもしれない。ただし、このアンケートは、あくまで出席していた学生が回答したものであり、欠席していた最も問題のある学生は参加していないことも考慮する必要があろう。

積極的学生の対応は、どの学科の学生も、「友人にたずねた」（31～33％）、「関係する図書で調べた」（14～18％）「担当教員に質問するようにした」（７～10％）の順であった。最近の若者は、何でも友人に相談する風潮が見て取れるが、教員に質問する学生が少ないことは、残念であり教員も反省する必要がある。「本学の学生は、マジメに出席するが、質問をしない」と非常勤講師の先生からも指摘される。我々、教員も積極的に質問を喚起する必要があろう。

学科別で見ると、生産環境科学科の学生は、教員によく聞いており、応用生物化学科の学生は図書で調べる割合がやや高い傾向が見られる。早い学年から、実習や実験などを通して、教員と学生の親密な関係が取れるようにカリキュラムを構成した方が良いかもしれない。



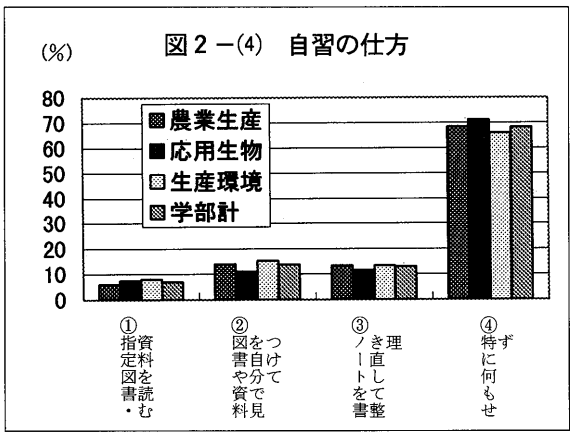
(4)　講義科目を受講するに際しての準備について（複数回答）

自習に関しては、「特に何もしなかった」という回答が、どの学科でも66～71％と約３分の２を占めた。「何もしない」学生の割合は、応用生物化学科で若干多く、生産環境科学科で少なかった。

一方、復習に当たる「ノートを書き直して整理した」（11～14％）や、「指定図書や資料を読んだ」（５～８％）、「関連図書を自分で見つけて読んだ」（11～14％）など、何らかの予習・復習を行った学生は合わせて２割程度しかいなかった。

これらの内、どの程度が予習にあてられているか分からないが、大部分の学生は、授業前に予習をしていないと判断できる。欧米に比べて日本の大学生は勉強しないと言われるが、本アンケート結果もズバリこれを裏付けている。高校における受講科目の偏りなどか

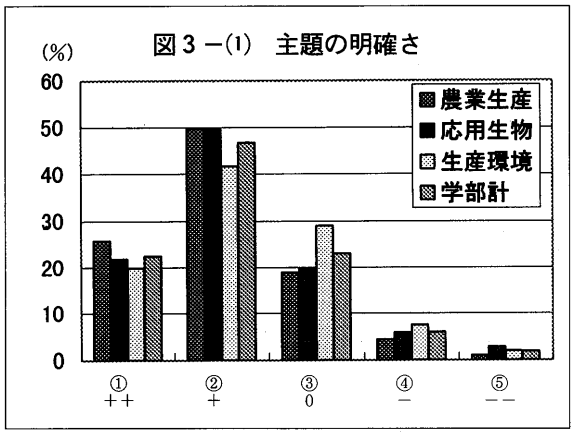
ら「高校レベルの基礎学力が不足し、大学の授業を理解できない」と回答する学生が多いにもかかわらず、学生自らが受講に際して努力していないことは残念である。一方、教員も「試験前しか学生は勉強しない」と諦めているところもある。過保護に育てられ、言われたことしかやらないという幼児化した学生が多い現状では、小学校なみに、宿題を出すとか、毎時間小試験をするとか、本を読ませてレポートを提出させるなど、こまめに自習させる機会をつくる必要があるのではないだろうか。



３．当該授業の内容評価について

以下の授業内容の評価に関しては、＋＋「強くそう思う」から－－「強くそう思わない」まで５段階評価で設問した。

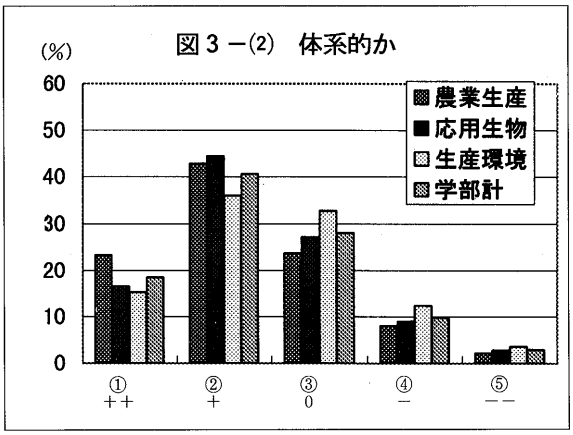
(1)　講義の主題・テーマが明確で、その趣旨に沿って進められたかについて



この設問については、69％が＋＋ないし＋の肯定的評価をしており、非常に高い評価となった。また、学科別の傾向をみても、ほとんど格差はなく、学部の教員の講義は、毎回主題・テーマが明確にされて進められていることがうかがえる。特に、農業生産科学科では76％が肯定的という圧倒的な評価であった。

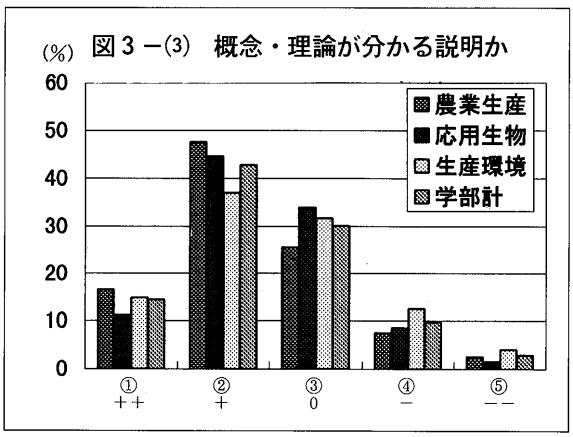
(2)　講義の内容・説明が体系的であったかについて

「講義内容が体系的で整理されていたか」に関しても、60％の学生が肯定的な評価をしていた。前問同様、農業生産、応用生物の２学科での評価が高かった。しかし、生産環境の学科では、最高の肯定的評価であった農業生産科学科より、10ポイントほど低かった。



(3)　概念や理論の説明について

「講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されたか」という設問に関しても、全体的には58％が肯定的見方をしたが、学科毎の評価では最高の農

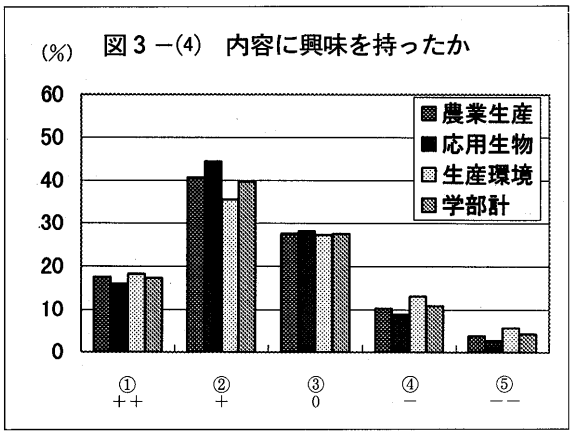


業生産（65％）と生産環境（52％）では、やはり10ポイント以上の大きな格差となった。

また、応用生物化学では「どちらともいえない」という０評価をした学生が34％みられ、生産環境の学科でもこれにマイナス評価を加えると49％が留保ないし否定的見方をしていることが明らかになった。

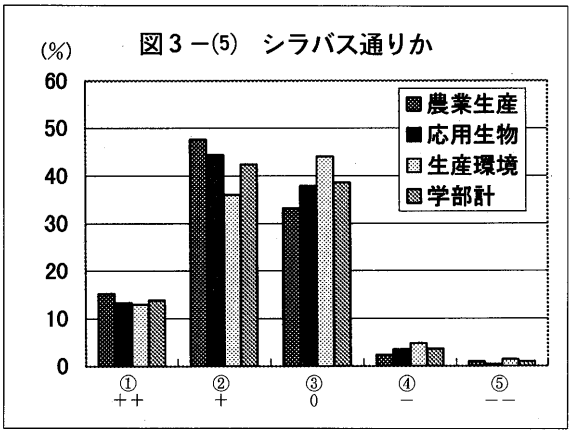
(4) 講義の内容について

「講義の内容は興味あるものだったか」については、農業生産、応用生物の２学科では約60％がプラス評価をした。しかし、生産環境ではこれより６ポイントほど低く、逆にマイナス評価が同学科では20％近くにものぼった。



(5) 講義の進め方について

「講義概要（シラバス）のとおりに進められたか」という設問に関しては、マイナス評価は各学科とも非常に少なく、平均では5％程度にとどまった。そして、

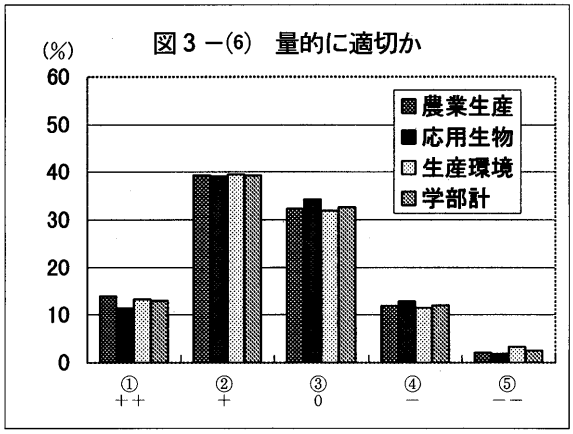


プラス評価が全体の平均で56％に達したが、ここでは０評価が設問最多の40％近くに達し、特に生産環境ではこれが44％も回答された。

(6) 授業の量的な適正さについて

「各回の講義あるいは全体の授業の内容は、量的に適切だったか」という項目に関しては、プラス評価からマイナスまで、最も学科間のバラつきが少なかった。

適度であったという回答は、平均で52％と過半数を超え、学生は現状程度の講義ボリュームでよいという結果であった。



４．当該授業のやり方について

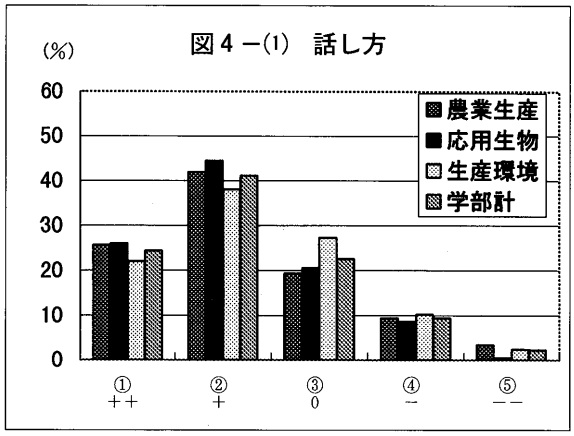
前述の設問と同様、アンケートを実施した当該授業のやり方に関する意見を＋＋から－－まで、５段階評価でたずねた。

(1) 教員の話し方（速さ、声の大きさ、明瞭さ等）について

全体の傾向としては、＋＋と＋の合計は65％で、(5)の「教員の熱意」の71％に次いで高率の評価であった。学生の大半が教員の話し方は適切であると感じている。しかし、－と－－評価が12％あり、一部の授業で改善が望まれる。

学科別の傾向では、どの学科の評価も全体平均の±２～５％内であって、学科による大きな差はみられなかった。＋＋と＋の合計の学科の順位も、応用生物化学科（第２学科）、農業生産科学科（第１学科）、生産環境科学科（第３学科）の順であるが、差は４％内で

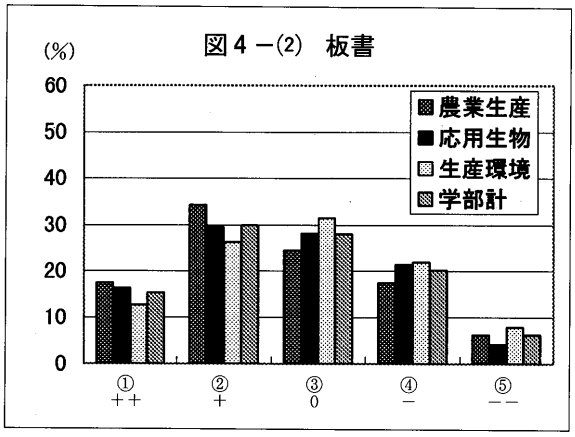
あるので、学科による有意な違いはなかった。



(2)　黒板の使い方、板書文字について

全体では、＋＋と＋の合計が45％で半分を割り、反対に－は20％で最多であった。このように、多くの学生が板書の字のきれいさや適切な分かりやすい使用を望んでいることを示している。心掛け次第で比較的改善しやすい事項なので、教員側の努力が期待される。

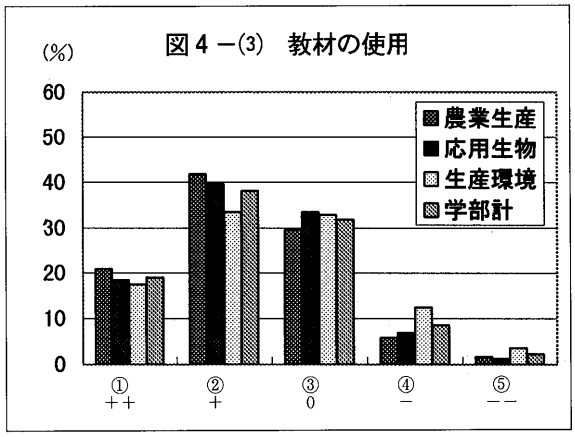
プラス評価の学科の順位は、第１学科（52％）、第２（46％）、第３（39％）の順で、13ポイントの差があった。



(3)　視聴覚資材・プリント・教科書などの適切な使用について

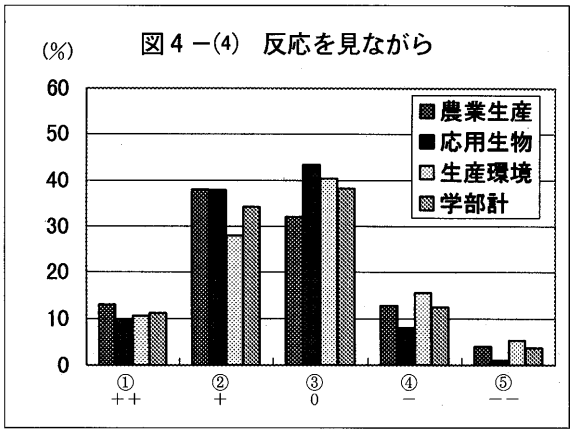
全体の傾向では、＋＋と＋の合計が57％と多く、一方－と－－の合計は11％にとどまるなど、多くの授業で教材などが適切に使用されていることがうかがえた。

プラス評価の学科順位は、第１、第２、第３の順で、格差は10ポイント以上みられた。



(4)　講義の進め方について

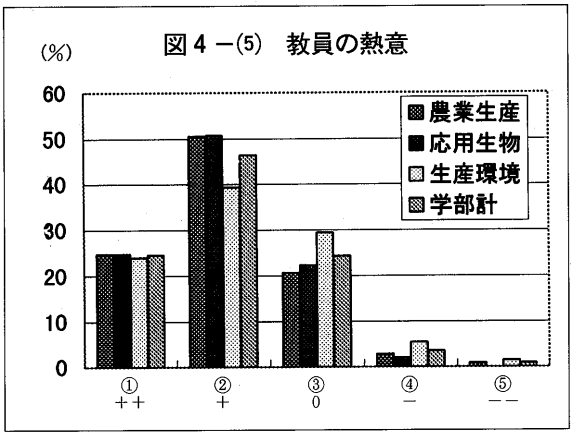
「講義は学生の反応を見ながら進められていると思う」に関しては、全体のプラス評価の合計は36％にとどまり、「質問を促すような工夫をしたか」という評価（36％）に次いで低かった。その内訳も＋＋は11％に過ぎず、＋は34％であるなど、＋＋が低いのが際立っている。学生の反応を見ながら進めることは、他の事項よりも、多少意識して心掛ければ比較的改善しやすい事項なので、教員側の努力が期待される。



(5)　教員の講義に対する熱意について

全体の傾向としては、＋＋、＋の合計が71％と最も高く、また－、－－の計が５％で極めて低くなったことから、教員の教育に対する熱意が十分学生に伝わっていると見られる。

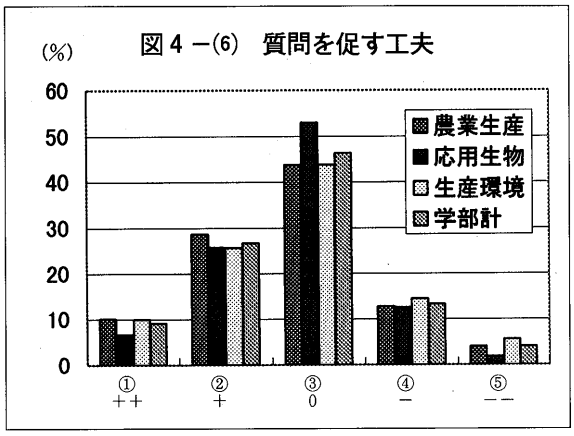
学科別の傾向では、第３学科で＋が他学科より10ポイント弱少ない分、０評価が数ポイント多い程度で、学科による違いは少なかった。



(6)　学生に質問を促すような工夫について

教員側が、受講学生に対して質問を促すような工夫をしたか否かについての評価は厳しく、全体では＋＋と＋の合計は36％と最も低い結果にとどまった。その分０評価が46％と最も多くなり、教員側の授業改善が求められる結果となった。授業後、紙に書かすようにすると質問もでるが、授業中にただ「質問はありませんか」というだけでは、通常殆ど質問として返ってこないので、今後の検討・工夫が必要であろう。

学科別では、第２学科が＋＋評価が他学科より３ポイントほど少なく、その分０評価が10ポイント弱多くなっている程度で、学科間の差異は殆ど見られなかった。



５．おわりに

学生に対し、初めてアンケート形式による授業評価を行った訳であるが、種々興味ある結果が示され、われわれ教員側としても参考になるところがあり、有意義であった。無論、こうした調査結果を待たずとも、個々の教員の中には日々授業改善に努めている方もいると思われるが、学部全体で同一調査を実施することで、より客観的な結果を知ることができた。

得られた結果を概括的にみると、以下のような特徴点を指摘することができよう。

第１は、講義の選択理由について、学科毎のカリキュラム事情が強く反映されていることであった。すなわち、「必修だから」受講したという意見が過半の51％を超える学科もある反面、こうした意見は20％にとどまり、「講義概要を見て内容に興味をもった」「専門科目として必要」という、より選択幅をもって受講をしている学科の例もみられた。その意味で、こうした学生にとっては、シラバスの存在が非常に大きな意味をもっていることが示唆された。

第２は、講義の水準と受講学生の態度に関してである。難易度に関しては、30％余りが「わかりにくかった」と指摘しているものの、その理由は自らの勉強不足や基礎知識の不足等、受講に向けた努力の欠如を学生自身が認めていた。

しかし、わからないところが出ても、それに対する対応としては半数近くが「何もしなかった」と回答し、予習・復習等の準備に関しても70％近くが「特に何もしなかった」と答えていた。出席率は概ね高いことを考え併せると、こうした傾向に対しては、何らかの対応が必要なことを示しているといえよう。

第３は、授業内容や授業の進め方に関しては、概ね高いプラス評価が出たものの、一部では教員側の一層の授業改善が指摘されたことである。例えば、教員の授業に対する熱意は70％余りの学生が認めており、話し方も適切で、主題・テーマに沿った講義が進められていることが明らかになった。

しかし、その一方で約50％の学生が講義は「概要（シラバス）通り」には進められず、板書の仕方も良くなく、学生の反応を見ながらの授業でなかったことを指摘し、改善を求めていた。とりわけ、学生の質問を促すような工夫については、「どちらともいえない」「マイナス（－、－－）」という評価が合計して60％を超えており、常に黒板を背にして講義をしながら気

づかないで過ごしてきた教員側の姿勢を指摘された。

以上見たように、一方通行に偏しがちな授業について、学生のアンケート結果から得られた成果は大きなものがあったといえる。これらを手がかりに、農学部教育検討委員会としては、さらに論議を深め、また学科へのフィードバック等を通じて、今後一層、授業改善の努力を進めていきたい。

【謝辞】

本アンケートの実施に当たっては、多くの関係教員と学生諸君の協力を得た。特に、結果の集計解析にご尽力頂いた農学部竹内公男教授に感謝申し上げる。また、本調査の遂行に当たっては、大学教育開発研究センターから資料提供や予算的な配慮を頂き、農学部学務係からは事務的な手を煩わせた。記して感謝申し上げる。

新潟大学農学部教育検討委員会

委員長　吉田昭治

伊藤忠雄　　古市尚高

仲川洋治　　大山卓爾

阿部　学　　阿部信行

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）
－講　義　科　目－

農学部教育検討委員会

農学部では，目下，教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので，授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて，授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し，マークシートの該当の番号の上下の点をＨＢの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++　＋　0　－　--」になっている場合は，次のことを表しています。

「++」は，「強くそう思う」
「＋」は，「そう思う」
「０」は，「どちらでもない」
「－」は，「そう思わない」
「--」は，「強くそう思わない」

なお，特に意見・感想のない場合には，その質問に答える必要はありませんので，マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

１．まず準備としての質問です。

(1)　どの学科に所属していますか。
①農業生産科学科　②応用生物化学科　③生産環境科学科　④その他（他学部等）

(2)　学年は何年ですか。
①1　年　②2　年　③3　年　④4　年

２．一般的な質問です。

(3)　この講義を選択した理由は何ですか。（複数回答可）
①必修だから　②講義概要を見て内容に興味をもった　③専門科目として必要だと思った　④時間割の関係で選択せざるを得なかった　⑤簡単に単位が取れそうだった　⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(4)　この講義の難易度は，あなたにとってどうでしたか。
①非常にわかりやすかった　②わかりやすかった　③どちらともいえない　④わかりにくかった　⑤非常にわかりにくかった

(5)　受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。（複数回答可）
①講義の程度が高すぎる　②受講に要求される基礎知識が不足していた（高校での未履修等による）　③自分の勉強，努力が足りなかった　④内容に興味がもてず勉強する気になれなかった　⑤授業のやり方が良くなかった　⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(6)　受講の結果，どのようなものが得られましたか。
①体系的知識が身についた　②この分野の学問に対する関心が深まった　③一部の内容に関心をもった　④特に何も得られなかった　⑤その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

３．あなたの受講の様子について質問します。

(7)　どのくらいこの講義に出席しましたか。
①ほぼ全回出席した　②2/3くらいは出席した　③1/2くらいは出席した　④ほとんど出席しなかった

（裏面あり）

(8) 講義に欠席あるいは遅刻したとき，その後どうしましたか。(複数回答可)
①講義の内容を友人に聞いた ②ノートを友人に借りて写した ③担当教員に聞くようにした ④特に何もしなかった

(9) 講義で理解できなかった箇所が出てきたとき，どうしましたか。(複数回答可)
①友人にたずねた ②担当教員に質問するようにした ③関係する図書で調べるようにした ④特に何もしなかった

(10) 講義科目を受講するに際して，どのような自習をしましたか。(複数回答可)
①指定の図書や資料を読んだ ②関連する図書や資料を自分で見つけて読んだ ③ノートを書き直して整理した ④特に何もしなかった

4．この授業の内容について質問します。

(11) 講義の主題・テーマが明確で，その趣旨にそって進められましたか。
++ + 0 − −−

(12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていましたか。
++ + 0 − −−

(13) 講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されましたか。
++ + 0 − −−

(14) 講義の内容は興味あるものでしたか。
++ + 0 − −−

(15) 講義概要（シラバス）どおりに進められましたか。
++ + 0 − −−

(16) 各回の講義あるいは全体の授業の内容は，量的に適切でしたか。
++ + 0 − −−

5．この授業のやり方について質問します。

(17) 教員の話し方（速さ，声の大きさ，明瞭さ等）は適切でしたか。
++ + 0 − −−

(18) 黒板の使い方，板書の文字は適切でしたか。
++ + 0 − −−

(19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切に使用されていましたか。
++ + 0 − −−

(20) 講義は，学生の反応を見ながら進められていると思いましたか。
++ + 0 − −−

(21) 教員が講義に熱意をもっていると感じましたか。
++ + 0 − −−

(22) 教員が学生の質問を促すような工夫をしていましたか。
++ + 0 − −−

6．その他次の事項について，マークシートの裏面に自由に書いてください。

(23) この講義で良かったと思う点をあげてください。

(24) この講義で良くなかったと思う点をあげてください。

(25) 新しく開講を希望する科目はありますか。

(26) その他，設備などに対する意見を含めて，自由に書いてください。